

ふかまちのまど

第三号(三年)第一日
発行元 深町連合町内会
連絡先 03-3352-1111

連合町内会活動報告

全国大会出場おめでとう

深町連合町内会
会長 天木 雅之

町内の皆様には日頃より町内活動にご支援とご協力を頂き有難うございます。
町内の皆様にお知らせいたします。
第四十回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会に深町より二名の方が出場されました。
中組 千川 翼 様
上組 下成瀬 西 颯太郎 様
町内を代表し皆様と共に心よりお慶び申し上げます。

歩く会にご参加を

歩く会幹事
石井 堂照

本郷町
白竜湖周辺



月日 四月五日(火)
予備日 七日(木)

行程
八時三〇分 深町上組公民館発(車)
九時三〇分 白竜湖周り探訪
十一時三〇分 探訪終了 昼食
十三時三〇分 深町上組公民館着(車)

※昨年度はニチエーコミュニティボックス等でも、ご協力いただきありがとうございました。
月一回、少し歩いて昼食を食べ、皆と話をしてみませんか。
行きたい場所がある時は連絡して下さい。
バス停まで迎えに行きます。
車代負担は120円、食事代は個人負担です。

連絡先
084816418668
(090-899415485)

「深小だより」 「深小だより」 新年度を迎えて

深小学校長 坂井 美由紀

三月二十三日(水)、第七十五回三原市立深小学校卒業証書授与式を行いました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、短時間で規模を縮小しての式でしたが、全校児童が一人一鉢育てたパンジーの花々にも見守られながら、九名の卒業生がそれぞれの進路に向かって胸を張って巣立っていきましました。また、二十五日には、修了式を行い、令和三年度を無事終えることができました。

この一年間、学校教育活動についても温かくご支援・ご協力いただきました地域や保護者みなさまに心より感謝申し上げます。
さて、四月一日からは新年度の始まりとなります。この度の人事異動で、職員の変更がありましたので、お知らせいたします。

- ◇ 転出する職員
教諭 今井 由美
三原市立須波小学校へ教頭昇任
- ◇ 離任する職員
事務 向井 好美
- ◇ 転入する職員
事務 大峠 和音

今年度は新入学児童一名の予定で、全校児童二十三名でのスタートとなります。四月七日の入学式を全校児童、職員ともに楽しみにしているところです。「知識及び技能」「思考力・判断力」「表現力」「主体性」を高めるべく、さらに豊かな教育活動が推進できるようにチーム深として取り組んでまいります。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

深町子どもを守る会

子どもをみんなで
守りましよう。

深小の子供は
午後四時前以下校します。
※下校時間は日によって異なることがあります。
○近くで、遠くで、みんなを
見守りましよう。
○あいさつ
声かけをましよう。



「ふかまちのまど」ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

やつと が始まります!

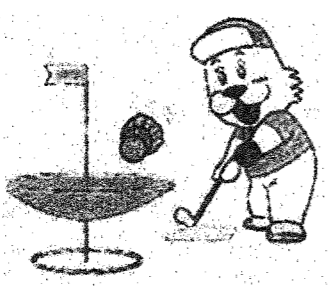
深町お茶の間サロン(仮)
協力者一同

「ふかまちのまど」一月号で「スタートします!」とお知らせさせていただきました。「深町お茶の間サロン(仮)」ですが、新型コロナウイルス対策のため、延期を余儀なくされました。
満を持して、この度やつと、四月六日からスタートします!
ちようど新年度の始まりでもあり、春を迎えて、木々が芽吹き、花が咲き誇る良い季節です。毎週水曜日午前十時からの「いきいき体操」に、ぜひお出掛けください。体操に加えて、四月六日に「体操の効果などのお話」、十三日に「体力測定」があります。この機会に、ふるってご参加ください。
一月の開催を延期せざるを得なくなった際には、思いのほか多くの方から、「楽しみにしていた」「早く始まってほしい」とお声掛けいただき、励みになりました。
また都度の開催案内や延期案内の全戸配布にご協力くださった町内会役員の皆様にも、心から感謝申し上げます。
週一回の「いきいき体操」と交流を通して、深町内に笑顔の輪が広がりますように! たくさんの方にお会いできるのを楽しみにしています。

- 上組 天木 雅之
林 一恵
- 中組 安藤 志保
村上 孝子
- 下組 高平 美穂
渡部 純子

TBG協会より

三原市月例・令和四年三月
ターゲット・
パードゴルフ大会



三原市TBG月例大会を、三月二十六日(土)に予定していましたが新型コロナウイルス感染症対策の為、中止しました。

次回の大会は、四月九日(土)に行う予定です。
TBG協会
会長 船本 雄三

謹んでお悔やみ申し上げます

網掛 隆幸 様
(下組 一班) 七十五歳
三月一日

深町各種団体四月行事予定

- ◆ 連合町内会
- ▼ 定期総会 一七日
- ◆ 上・中・下町内会
- ▼ 定期総会 一〇日
- ▼ 小学校
- ▼ 就任式・始業式 六日
- ▼ 入学式 七日
- ▼ 学区児童会 八日
- ▼ 委員会 八日
- ▼ 眼保健診 一五日
- ▼ 内科健診 一八日
- ▼ 全国学力・学習状況調査 一九日
- ▼ 参観日・学級懇談会 PTA総会 二二日
- ▼ 学力定着調査・学習環境調査 二六日
- ◆ 如水館中学・高校
- ▼ 始業式 七日
- ▼ 入学式 八日
- ▼ 学年朝会(高3) 一九日
- ▼ 全国学力調査(中3) 一九日
- ▼ 学年朝会(高1) 二〇日
- ▼ 授業参観日・保護者会 二二日
- ▼ 学年朝会(高1) 二二日

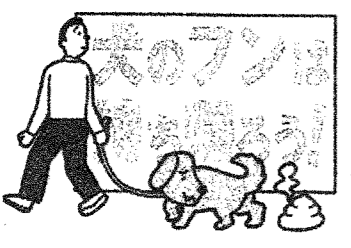
春です
木々も花をつけ芽吹いています。



スモモ (貴陽)



こみの
ポイ捨てはだめ
わがまちをこみのない
きれいなまちに



飼い主が
責任を持ってしまつましょう。

深の里山

「ふかまちのまど」十周年記念冊子
2004年発行

深町町内会連合会が一九九三年（平成五年）六月に深町町内連合会が結成され、翌年五月に広報紙「ふかまちのまど」が発刊されて十周年にあたり、これを記念して小冊子「深の里山」を発行しました。

その一部を抜粋掲載いたします。
石井 静夫

1 御調坂（ミトサカ）の道

御調坂は古くから尾道より久井に通じる大切な交通路として賑わっていたが、今は車社会、国道や県道が整備された現代では、この山道を利用する人はほとんどいない。

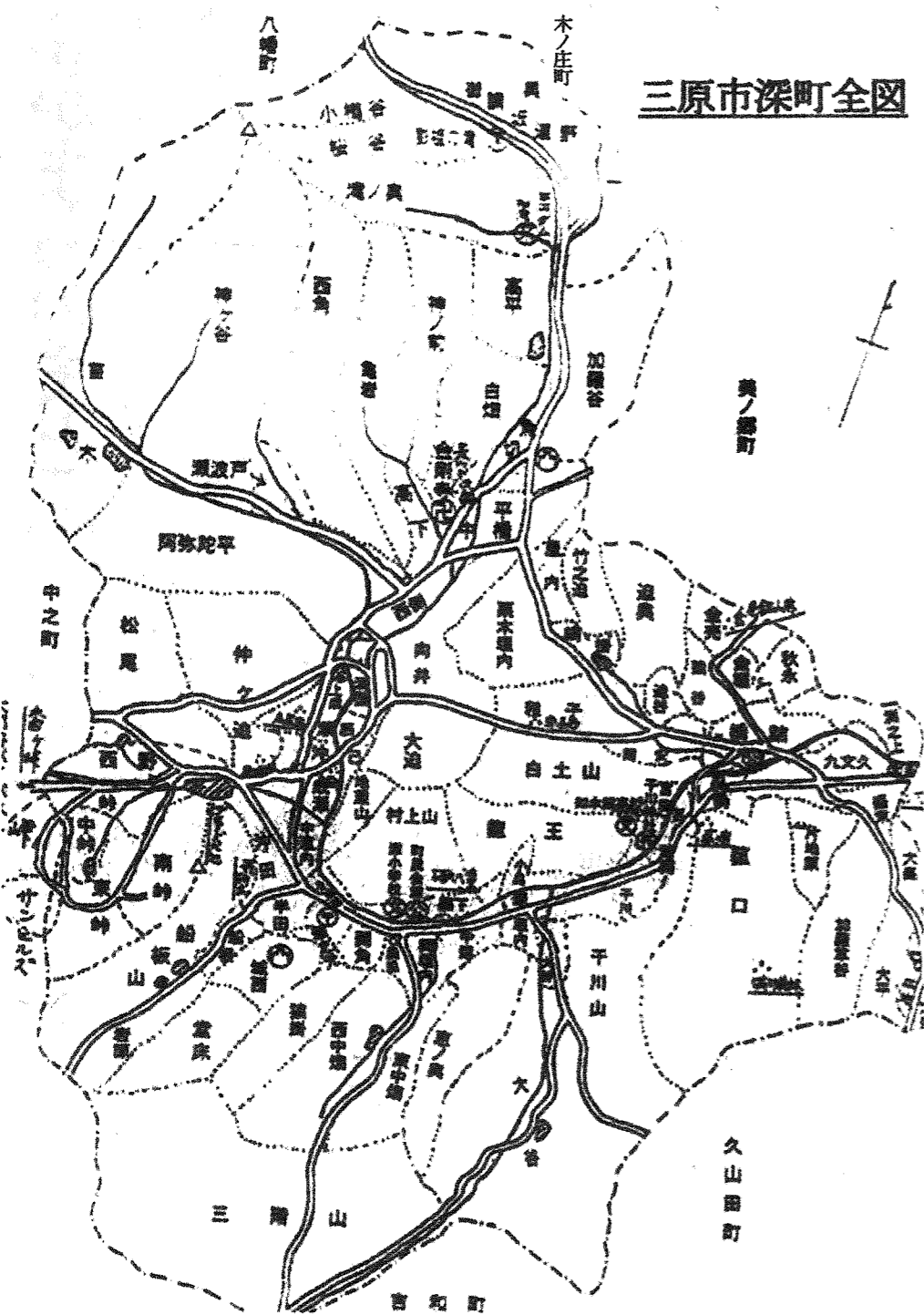
尾道から久山田の椎木峠を越えて深に入ると、綱掛峠を下った所に苦むした大きな道標がある。百数十年前に建てられたもので、「右は三原へ一里半、左は尾道へ三里」と刻まれている。

ここからが御調坂で、約八キロにわたり史跡、名勝、伝説の物語が多く、村境の四つ堂に至るまではなだらかな道で、山と谷と水との風景を楽しませてくれる。

その四つ堂からの下り坂は険しく、奥徳高のような厳しさがあふれる。この道は「中国自然歩道の一部」になっており、それぞれの地域の人がよく手入れをされているので、険しい山谷でも、山と森と水の音が調和し、すばらしいものがある。この山を下った所までが御調坂である。

長い道のりと険しい坂道を下り、ここで坂道が「みてた」と思い、それが「ミテサカ」になったように、三戸坂、御調坂と変わったと伝えられている。

「みてた」 ↓ 「無くなった」



御調坂を過ぎると、長閑な田園地帯の美生（みのう）本庄、今津野を経て、野間の峠を越えて久井の地に入る。

この道は明治、大正から昭和の初期まで尾道と久井の両家畜市場を結ぶ馬喰道（バクロウドウ）と呼ばれ、牛買商人（ウシアキンド）をはじめ、多くの人が行き来したものである。

牛市が立つ頃になると「モウーモウー」と啼く二・三疋の牛を追いながら狭い山路を急ぐ牛商人の姿があった。美生や本庄の農民は、農作物を尾道の人に売るために朝早く家を出た。又、三原神明さんや尾道の港祭りに行く人も、この道を利用していった。もちろん歩いで。

つい半世紀前頃までは、この地域の住民にとっては生活上大変重要な道だったことがよくわかる。

これからはしばらく、御調坂に残る史跡を紹介していきますが、古老からの聞き伝えも多いことをご理解願いたいと思います。

2 四つ堂



深からと美生からと登り切った所が御調坂の頂上で、村境近くに辻堂がある。「堂さん」といわれ、通る人の誰もが一休みする。

堂には六体の地藏（本尊は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天道の衆生の苦しみを救うといわれる地藏菩薩）が並ぶ。

奇怪だが、全部胴体だけで首がない。何故か定かでない。

古老の話では、そこを通る人の安全を祈ると共に過ちを犯してはいけない、怪我があつてはいけない、元氣を出さす戒めのために胴体だけにしたという。

山頂の堂でも、本庄、美生の人々が清掃整備され、手入れがよく行き届いている。よくみると、

負い子の荷物をかつぎ易いようする為か、床板を高くしている。堂の横の草むらに、道しるべの石碑が立つ、明治三十三年（一九〇〇）青山氏寄贈で、左は尾道、右は三原と刻む。百年余も前だが当時の屈強な若者達が、急坂な岩場を担ぎ上げたものだろう。

左尾道とは、深、久山田栗原を経て尾道へ至る道、三原とは坂谷太郎谷、中之町（当時は山中村）を経て三原に至る道しるべ。

更に北に向かえば、険しい坂道を下り、八幡、今津野、久井に通ずる道である。東へ登ると、尾道でも一番高い大平山。

又、堂の前は三原で一番高い竜王山（六六五m）の登山口となっている。その山から八坂峠、大峰山、佛通寺に至る中国自然歩道は、各地の登山愛好者の原田摩訶衍寺（まかえんじ）から竜泉寺ダム、御調坂、竜王山、佛通寺に至る健脚コースになっていて、登山道もよく手入れされている。

深と八幡は昔から縁組が多く、正月になると、母親は娘が里帰りして来るであろうと、元旦から村の境近くの道で待ち受ける。

正月も三日頃になって、ようやく娘は孫を背負ってやってくる。母親は「よう来た、よう来た」と抱き合せて嬉し涙を流す。又、逆に嫁ぎ先へ帰って行く娘や孫を堂まで送り、「辛抱せよ、まめで頑張れよ」と励まし、後ろ姿が見えなくなるまでいつまでも手を振る。母親はしよんぼりして、とめどなくあふれる涙を、その堂の柱に流したという。

それで、堂は別名「涙の堂さん」ともいわれている。

母と娘の情愛は、昔も今も変わらない。

3 延命の泉（広虫の化粧水）

前述の辻堂から北に三〇〇mほど下った所に小さな洞窟があり、

ここから湧水が出ています。ここは険しい岩場であるが、日照りが続いても絶えることなく流れ出る不思議な水である。

この地方ではこの水を、命の水・薬水と言いつたにいられている。神護景雲（奈良時代）の昔、妖僧道鏡の宇佐八幡事件で、時の孝謙天皇（女帝）の意にそわず、和氣清麻呂は大隅（鹿児島）へ、連座した姉の広虫は備後の八幡荘へ配流された。

広虫は、弟の罪が軽くなるように祈りながら御調坂を越えて八幡荘へ向かった。

広虫はこの坂を越えた所で疲れ果て、意識朦朧となった。栗原沖から大迫峠、綱掛峠と長い道のりと、頂上からは急坂な岩場のため、身動きがでなくなつたのである。

丁度、この岩場から流れ出る湧水があり、これを飲むと途端に元氣を取り戻した。

広虫はこの水で、疲れ切った顔の化粧直しをした。元々美人であった広虫は見違えるような美しさになった。元氣を回復した広虫は目指す八幡荘へ向かった。

この岩場から少し下がった所に大きな岩があり、力を出し切って渡った足跡が残る。そこに、法均尼（広虫の後の名）由来の標識が建てられている。

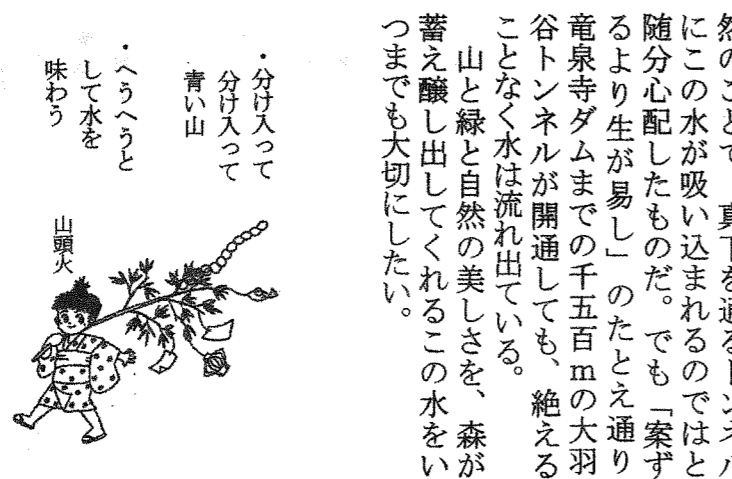
ここを通る人のために、竹の手杓がおかれ、飲みやすいように配慮されており、由来を読みながら喉を潤すことができる。

この地区の人は、疲れた時・病気になる時には、この水を飲めば元氣になるといふ。だから、この水は薬水とも言われ、大変重宝されている。

又、この近くには、御調坂一号古墳があり、地区の人々が周りをよく手入れされている。

およそ千二百年も昔、広虫（法均尼）が御調坂を越えてから今日まで、どんな日照りが続いていても「延命の泉」は枯れたことはない。だが、昭和六十年頃山陽高速道が計画され、夢想だになつた突如のこと、真下を通るトンネルにこの水が吸い込まれるのではと随分心配したものだ。でも「案ずるより生が易し」のたとえ通り、竜泉寺ダムまでの千五百mの大羽谷トンネルが開通しても、絶えることなく水は流れ出ている。

山と緑と自然の美しさを、森が蓄え醸し出してくれるこの水をつまんでも大切にしたい。



つづく